

進化する
循環型ビジネス ⑥

三洋商事

三洋商事（東京都江戸川区、河原林令典社長）は、廃棄された情報通信機器や電気通信設備を手作業で解体・分別する中間処理を担う。スマートフォンやパソコンから通信基地局まで幅広く手がけ、リサイクル率は97%以上という。埋め立てゴミの削減にとどまらず、徹底した情報漏えい対策で資源循環を支えている。

者にとりて売却する。得意とする通信関連は、扱う製品が微細なため人による処理工程が多い上に、情報漏えい対策が不可欠。そのため金属探知機やカード認証による開閉シス

通信機器 手作業で分解



通信機器・設備を手作業で分解する

情報漏えい対策徹底

テムなどを備えたセキヤリテイルームを持つ。データ破壊装置も

あり、毎月のように行う。小型化の流れで産業廃棄物の総量は減少傾向にあるが、個数が増えている。製造の逆の工程をする分解では自動化が難しく、人による高度な作業がますます重要になっている。

河原林社長は「社会が便利になればなるほど必要になる仕事だ」と強調する。循環型社会という言葉が登場して久しいが、機能やデザインなどが先行し「リサイクルしやすい設計」は広

【会社概要】▷所在地＝東京都江戸川区東葛西3の17の41▷社長＝河原林令典▷資本金＝9000万円▷売上高＝39億800万円(2020年10月期)▷従業員＝255人(21年7月)▷設立＝1957年3月

河原林社長は「社会が便利になればなるほど必要になる仕事だ」と強調する。循環型社会という言葉が登場して久しいが、機能やデザインなどが先行し「リサイクルしやすい設計」は広

しないと本当に資源がなくなってしまう」と話す。

同社は近年、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の浸透もあり大卒の就職希望者が増えている。一方、産廃というだけで内定者の親らが入社に反対するケースもある。それでも河原林社長は「製造の裏側に我々がいる。もつと表に出ないといけない」とし、汚くて荒いとされる負のイメージの払拭を指す。地域清掃活動や見学などを通じ、事業の重要性や透明性を積極的に発信している。(火曜日に掲載)